

Hm²助成支援団体のご紹介

鯉城の会

会長 こまつ きよし 小松 清志さん

近年、旅行や仕事で広島市を訪れる障害者が増え、滞在中に一時的な介助やガイドを依頼されるケースが広島市社会福祉協議会などの関係機関に増加。その際に、安心して広島市を満喫してもらえるように介助やガイドをすることを目的に平成25年4月に結成したのが「鯉城の会」です。

市外から訪れる障害者へ介助や観光ボランティアを

「平成25年3月に、広島市社会福祉協議会主催の『市外から訪れる障害者への介助ボランティア講座』を受講した14人が、学んだ事を活かした活動を行いたいと、翌4月に結成しました。メンバーの大半が、会社を定年退職した人で、それぞれが培った社会経験を、困っている人のために役立てたいとの思いで集まっています」と会長の小松清志さんは語ります。

活動内容は、毎月1回定例会を開き、メンバー同士の情報交換を行うと同時に研修会を開催。障害者についての講義を受けたり、実際に介助やガイドで行く施設を事前に見学するなどして、依頼があった場合、臨機応変に対応できるように常日頃から取り



▲事前下見の様子

組んでいます。また、全国各地から広島市を訪れる障害者からの介助やガイド依頼が広島市社会福祉協議会経由であった場合は「鯉城の会」のメンバーが2人1組で安全・安心を確保した上でサポートしています。

「障害者が観光する場合の介助やガイドはニーズがあるにも関わらず、全国的に見ても同じような活動をしている団体は少なく、日々の生活や活動の中から学ぶ事ばかりです。しかし、メンバーは皆、自分の経験を活かせる喜びを感じると同時に、人の役に立つことができる誇りを持って活動しています。

平成27年度は、会を結成するきっかけにもなった『市外から訪れる障害者への介助ボランティア講座』を、われわれが中心となって運営していく予定です。今までは広島市社会福祉協議会の方から教えてもらう立場でしたが、自分たちが教える側に立つことで、今後活動するうえで新たな発見があると思います。また講座を受講した方の中から、ひとりでも多くこの活動に参加してもらいたいです。そうして後継者を育てることに取り組んでいきたいです」と小松さんは今後の方向性についても話をしてくれました。



▲メンバーの皆さん

森のようちえん まめとっこ

代表 いしい ちほ 石井 千穂さん

自然の中で、子どもも大人も、その人らしく命を輝かせて子育てすることを目的に、平成23年4月に安佐南区や西区を拠点に活動する共同保育型の子育ての場として作られたのが「森のようちえん まめとっこ」です。

子どもと親と一緒に育つフィールドを探して

「平成20年、愛知県春日井市に住んでいた時に自分の子どもが産まれ、子育てで悩んでいた時に巡り合ったのが『森のようちえん』です。身近な自然環境の中で、肩肘張らずにのびのびと子育てする様子に興味を引かれました。そこで子どもは自分の力で育っていく事を学びました。そして私も同じ悩みを抱える人たちの役に立ちたいと考え、平成22年に故郷の広島に戻った際に、理想としていた子どもと親がともに育つ『森のようちえん』を作りたいと思いました」と代表の石井千穂さんは語ります。

石井さんは、手始めとしてブログを通して情報を発信。趣旨に賛同してくれる仲間を募った後、まずは10人でスタート。活動は安佐南区や西



▲古民家での様子

区の施設を借りたり、地域住民理解の下で整備済みの山を散策したりと、季節や保育内容に合わせてフィールドを選んで幅広く行っています。野外での活動がほとんどで、散歩や畑仕事、きらきらとした陽射しのもとで絵を描く、「にじみ絵」にも挑戦しています。参加人数は現在、園児は年少から年長を対象としたクラスの「そらまめ」が6人。概ね1歳から未就園児とその保護者を対象としたクラスの「さやまめ」が13組。さらに一般の親子を対象にした月1回単発クラス「おさんぽ会」には毎回10組程度が参加。これら3クラスに分かれて活動しています。また新たに、安佐南区沼田町大塚地区にある築100年の趣ある古民家を、子育て支援のための活動拠点に改装する取り組みも行っています。

「今後は、子どもの遊び、子どもが育つということについて、親同士でもっと考え話し合い活動していきたいです。そして安心して小学校入学までの育ちの場として選択できる環境整備にも力を入れていきたい、と思っています。さらに趣旨に賛同してくれる保護者や運営に携わってくれるスタッフ、支えてくれる地域も増やしていきたいです」と石井さんは今後について話をしてくれました。

※にじみ絵…水彩絵の具と水を使い、色が混ざったりにじんだりして、偶然できる色と形の变化をたのしむ絵の描き方。



▲築100年の古民家

湯来里山会

会長 どい よしお 土居 嘉男さん

広島市佐伯区湯来町を活動場所に、女性の新規就農の支援と遊休耕地の再生、町内の活性化を進めて、湯来町のさらなるにぎわいづくりに貢献することを目的に、平成26年2月に結成されたのが「湯来里山会」です。

週末農業を志願する女性たちがターゲット

「近年、湯来町では住民の高齢化が進み、遊休耕地が増加。その一方で、若者の中で田舎暮らしのブームもあり、週末に農業をしてみたいと思う女性が増えているようです。湯来町でも町外の女性に遊休耕地を提供して農業を体験してもらおうことで、農地の活用と、若者に半農を推進することができるのではと思いました」と代表の土居嘉男さんは語ります。

里山を元気にしようとの思いから、まずは平成26年1月に遊休耕地を使った「畑ガール」プロジェクトをスタート。このプロジェクトは都市部に住む女性たちに、地元湯来町の人と一緒に農業を楽しんでもらう目的で始まりました。平成27年2月に名称を「湯来里山会」に改め、4月からは畑の所有者に指導してもらい、そばづくりと米づくりを始めました。



▲地元の人と畑ガールと一緒に作業している様子

活動内容は、「畑ガール」として登録した女性2～3人ごとにグループをつくり、それぞれの可能なスケジュールの中で湯来町を訪れて、畑の所有者の指導の下で、色々な農作業に従事してもらいます。現在は、佐伯区や廿日市市在住の女性約30人が登録。独身の方ももちろん、結婚されている方も夫婦や子ども連れでプロジェクトに参加しており、季節によってジャンボにんにく、玉ネギ、ジャンボいちごなどの野菜や果物作りをしています。

「湯来町は、山や川があり自然環境に恵まれています。日々、慌ただしい都市部で暮らしている人も、のんびりとした湯来町を週に一度でも訪れ農業に従事することで、気分転換やリフレッシュして欲しい、といった狙いもあります」。

「畑ガール」の募集を始めて2年目の今年は、ポスター等を作ってもっとアピールし、湯来町へ来る人を増やし、いずれは定住者を増やしていきたいとの思いもあるそうです。そして湯来町をもっと活性化させていきたいそうです。時代の流れに乗りながらも、自分たちができる小さな事から、自分たちのまちの活性化にひたむきに取り組む姿勢に今後も注目です。



▲田植えの様子

寄付のお願い

ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)は、市民・企業・行政等が力を合わせて、市民のまちづくり活動を長期にわたり支援していきこうという基金です。現在、その基金を取り崩して助成を行っています。私たちの住む広島をよりよくしていくために、できるだけ多くの皆さまからの寄付をお願いします。

振込先 広島銀行広島市役所支店/別段預金 No.3000017

口座名義 公益信託広島市まちづくり活動支援基金寄付金受入口
専用の振込用紙をご使用いただければ、手数料はかかりません(ただし、広島銀行の窓口からの振込に限ります)。広島銀行の振込用紙を使用、または他の金融機関からの振込の場合、手数料は自己負担となります。
※この公益信託への寄付に対して税の減免はございません。
※頂戴したご寄付は、毎月末日締めにて集計し、翌月の5日(休日の場合は翌営業日)に基金へ寄付させていただきます。



基金の愛称「Hm²(ふむふむ)」とは…【ひと(Hito) まち(Machi) 広島(Hiroshima) 未来づくり(Miraizukuri) ファンド】の略で、頭文字(HMHM)をとって「ふむふむ」と読みます。【ひと】と【まち】をつなぎ、【広島】の【未来】を創造するファンドで、みんなが「ふむふむ」と納得しながら共感が広がっていくまちづくりをイメージしています。

公益信託広島市
まちづくり活動支援基金
ひと・まち広島
未来づくりファンド
ふむふむ²
Hm²

(公財)広島市文化財団では、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動を支援し、市民、企業、行政の協働によるまちづくりを推進するための仕組みづくりとして、公益信託による基金「ひと・まち広島未来づくりファンドHm²(ふむふむ)」を設けています。

この基金は、豊かでいきいきとした市民社会づくりを目指すため、市民の皆さんの自主的なまちづくり活動に対する助成事業を行っており、助成先は公開により、学識経験者などで構成する運営委員会が審査・選考を行います。

平成26年度助成団体や助成額等については、(公財)広島市文化財団ひと・まちネットワーク部のホームページでご覧いただけます。

また、基金では多くの皆様からの寄付をお願いしています。

HP <http://www.cf.city.hiroshima.jp/hitomachi/>

人材バンク 名人宝人 達人

さまざまな分野の達人たちが登録している
まちづくりボランティア人材バンク。地域活動や
まちづくりのお手伝いに、今日も、あなたのまぢを
達人たちがおうかがいしています。

リズム感を大切に、楽しく演じるのがモットー
観客からの声が心を和まし、向上心につながる

スリーコインズ 代表 細川 洋子さん

佐伯区五日市を拠点に、銭太鼓、南京玉すだれをメインに、奇術、ハーモニカ、箏曲なども演じるグループ「スリーコインズ」は、平成24年に人材バンクに登録。代表を務めるのは、細川洋子さんです。



▲銭太鼓の様子

「そもそもは平成17年頃、近所の方から銭太鼓を学んだことがきっかけです。その後、一緒に習っていた友人たちと立ち上げたグループがスリーコインズです」。リズム感を大切に、仲間と一緒に楽しく演じることで一体感が生ま



れるのが、銭太鼓の魅力と言う細川さん。もう一つの主要演目でもある南京玉すだれは、仲間の中で得意な人から学び、レパートリーとして加えていきました。メンバーは、佐伯区と廿日市市に住む男女合わせて12人。佐伯区の老人いこいの家中央荘での月2回の練習に加えて、毎月2回程度、公演も行っています。1回の公演は約1時間。当日の観客の人数や世代に合わせて、銭太鼓と南京玉すだれ、さらに他の演目を組み合わせています。銭太鼓のレパートリーは15曲ほどあります。南京玉すだれは、定番のすだれ柳から、広島カープにちなんだ鯉の滝登り、錦帯橋などオリジナリティあふれる演目まで多様です。佐伯区



▲メンバーの皆さん



▲南京玉すだれの様子

五日市の幼稚園や病院、老人ホームを中心に、廿日市市ふれあいプラザ、さらには広島県内各地、要望があればどこへでも出掛けて演じているそうです。「最初は緊張しましたが、回数を重ねることに自信もついてきました。ボランティア先で、私たちの芸を披露した後、観客の方から『とても良かったね。楽しかったですよ』といった声を掛けてもらえる、心が和み幸せな気持ちになります。そして活動をしていて良かったな、少しは人の役に立っているな、と実感しています。観客が喜んでくれると思うと、練習にも励みがでて向上心も湧いてきます」と細川さん。今後、肩肘張らずゆつくりと、自分たちのペースで活動を続けていきたいそうです。

その場に居た人の気持ちや感情を汲み取り、次世代へ、自分の言葉を通してかたり継ぐ

カープかたりべの会 代表 大下 達也さん

広島カープ創生期から昭和50年の初優勝まで関わった人々の記憶を次世代へ伝えていくことを目的に、平成20年2月に結成されたのが「カープかたりべの会」、その代表が大下達也さんです。

「平成19年に東区の二葉公民館で、旧広島市民球場の話を関係者に聞く講座があり、私も聴衆として参加しました。中



▲小学校での講演の様子

し、代表に就任。選手OBはもちろん、旧広島市民球場に関わった人などに当時の状況を丁寧に取材して話にまとめていきます。活動は二葉公民館を拠点に、毎年プロ野球の公式戦のない秋から冬にかけて講座を開催。同時に、依頼があれば他の公民館や小学校へも出掛けて講演を行っています。「かたりべとして、いつ何が起きたのか?といった記録を話すのではなく、その現場に居た人がどんな思いだったのか、どう感じたのかを語るようにしています。大切にしている事は、自分の気持ち

を自分の言葉で語る事です。取材時に、相手の気持ちの本質を汲み取ることができれば、おのずと語る言葉も浮かんできてくるもの。その言葉を、自らが感じるままに語っています。それが聞く人の心に響いてくれるはずだと思っています」。実際に、大下さんが語る広島カープ創生期の苦労話や、初優勝時の背景を聞いて、涙を流しながら聞く人もいるそうです。「今後は、広島カープの創生期の事を知らない若い世代へ、当時の事を伝えていくと同時に、広島カープに関わる思い出の品々を集めた『博物館』を造る道づくりをしていきたいです。また、広島カープについて僕らも知らない事がもつとあるはずなので、それを調べて、かたりべとしてのス



キルを磨いていきたいですね」。大下さんとメンバーの皆さんは、広島に住む人にとつて欠かせない共通の話題でもある広島カープについて、過去を次世代へつなげる活動を通して、応援しようとして取り組んでいます。



▲公民館での講座の様子

まちづくり市民交流フェスタで
人材バンクのテーマソング「絆愛」を発表

12月13日(土)・14日(日)の2日間、プラザを会場に「まちづくり市民交流フェスタ」が開催されました。人材バンクの達人たちも多数参加し、ステージ発表や体験コーナー等を盛り上げました。

14日(日)のステージでは、人材バンク登録者有志により、人材バンクのテーマソング「絆愛」を発表しました。このテーマソングは、登録者の交流会で「私たちの応援歌となるテーマソングを作って、皆で歌いたい」とアイデアが出されたことをきっかけに、人材バンク活性化委員会での話し合いを経て、平成24年にできたものです。登録者の一人である作詞の達人永岡純一さんを中心に歌詞と曲が作られ、活性化委員で歌好きな達人たちがボーカルとコーラスを吹き込んだオリジナルCDが完成しました。達人たちが集う場で歌ったり、毎月行なう人材バンク発表会の会場でBGMとして流したり、広く活用しています。今回のフェスタでは、ステージ発表プログラムに歌詞を掲載し、来場の皆さんと一緒に歌うことが出来ました。このテーマソングが、人と人をつなぎ、まちづくりの輪を広げてくれることを期待しています。

テーマソング「絆愛」に関するお問い合わせは、お気軽にまちづくり市民交流プラザまで。



まちづくりボランティア
人材バンク発表会

今回ご紹介している方々は、「まちづくりボランティア人材バンク」に登録されています。登録者が自らの達人ぶりを披露します。参加は自由ですので、気軽にお立ち寄りください。日時 毎月第4土曜日午後2時〜4時 場所 南棟1階ロビー 参加費・申込 不要

月日	内容	出演者名
4月25日(土)	色の不思議な力 (カラセラピー)	吉田 有香さん
※5月の人材バンク発表会はお休みします。		
6月27日(土)	家庭が・地域が元気になる! コミュニケーション術	井手口 ヤヨイさん
7月25日(土)	紙芝居「袋町ものがたり」の 上演ほか	阿部 頼繁さん

※内容等変更になる場合があります。

達人紹介・達人登録などの
お問い合わせは...
まちづくり市民交流プラザへ
☎(082)5453911
☎(082)5453838